



つまごいむら

農業委員会だより

第33号

平成20年3月25日

編集・発行／嬬恋村農業委員会 0279-96-1256



(3月8日 嬌恋村生涯学習推進大会にて)

農業委員会が“おちょんきねっと”の協力を得て 食農教育の一環としてキャベツを題材に制作

さらに、農業経営にやりがいと意欲を目指す「家族経営協定」や「認定農業者」・「農業者年金」の啓発・普及活動と加入促進の取り組みや、営農と生活に役立つ「全国農業新聞」の推進等も行っています。また、今日的な課題である、有害鳥獣対策や遊休農地の解消・防止、食農教育の取り組み等、農業委員会の使命を果たすべく、鋭意努力をして居ります。今後共、嬬恋村の将来の「農」を見据えた取り組みに、皆様方のより一層の御指導・御支援をお願い申し上げる次第です。

農業委員会は、農地をあずかる行政委員会として、農地の有効利用と、農業の担い手育成支援等、地域農業の活性化に向けた役割を担っています。従つて、その活動も農地法を始めとした各種農業関連法令により方向づけられていますが、単なる「農地の転用委員会」ではなく、農地の利用権設定の促進と利用集積計画の作成や各地域の農業者や、農業関係機関より、地域農業の問題点や意見・要望等を把握して農業政策に反映すべく、建議等の農政活動も積極的に行い、農業者と共に歩む「行動する農業委員会」をモットーに、実践活動に努めて居ります。



農業委員会長 霜田 都次

明日の
「農」を
めざして

表土流出対策とバイオエタノール生産を研修

農業委員会では去る一月二十一日～二十六日まで、沖縄県の農業視察研修を行いました。その研修の概要についてお知らせします。



県外

卷一百一十一

大前 横沢今朝男 嫩恋村農業委員会県外研修団は、今回の研修のテーマに『表土流失防止対策』と『バイオ燃料』を選択した。この事は、本村でも環境保全型農業実施にあたり、表土流失防止策として、グリーンベルトの普及を推進している事を念頭に、他地域での現況を観る為、また原油高騰による代替燃料対応への実態をつぶさに感じて来る事を重点においた。

る“サキシマスオウノキ”を見る。この木は根本に厚板を立てた様な樹齢推定500年という巨木。7種類が生息する“マングローブ”“帯等、自然が手付かずで残る。小さな島々が寄り添う中、そこで自然との共存を大切にしながら生き生きと働く人々の姿、島民とそこにある観光産業・企業とそこに働く一人一人の絆の強さに、観光産業の原点を見るさまを感じた一日であつた。

る“サキシマスオウノキ”を見る。この木は根本に厚板を立てた様な樹齢推定500年という巨木。7種類が生息する“マングローブ”“帯等、自然が手付かずで残る。小さな島々が寄り添う中、そこで自然との共存を大切にしながら生き生きと働く人々の姿、島民とそこにある観光産業・企業とそこに働く一人一人の絆の強さに、観光産業の原点を見るさまを感じた一日であつた。

この事業の概要は、石垣島の南東部に位置し、流域面積11km²に及ぶ轟川の流入口に存在する世界的に貴重な“青サンゴ群落”的環境保全上重要な海域で、毒土の流入により環境に負荷を与えているため、これを防止する事にある。この為流域対策目標を設定、地域を

地域が一体となり、継続的な対策目標により現状の1／2とする事としている。これら目標達成の為、営農普及計画により効率推進すると共に、土木対策の段階的整備計画により、区域別、年度別に工事管理を実施している。具体的な営農推進体制では、石垣市赤土等流出防止営農対策地域協議会の下、農家支援方策として、自給肥料増産奨励事業（石垣市）及び、生産総合対策事業（国・県）による

現在の世界のバイオエタノール生産状況は、生産量でコーンを使用の米国 1600 万 kL 、サトウキビ使用のブラジル 1600 万 kL 、中国の 1300 万 kL 、EU の 270 万 kL 、を主力にタイ・フィリピン・インドネシア・インド・オーストラリア・日本等が取り組んでいる。米国とブラジルの生産量は世界生産量の 75 % (2005 年) で、今後も各種の材料による生産研究が進行している。その中で日本の取り

三、被覆化植生ゾーン（44.5%）
 二、常緑植生ゾーン（31.1%）
 一、非畑地ゾーン（33.5%）

（ヘクタール）

に区分し、被覆化植生ゾーンを
 対策対象地域として事業実施し
 た。更に、営農目標を策定し
 サトウキビ作付体系の収穫割合
 を夏植（夏に苗を植栽、翌々年
 の春先一月に収穫する体系）を
 50%。春植（春に植栽、翌年の

の無償提供や一般市民参加による緑肥播種支援等、多くの支援事業が一体的に行われている。これら目標や対策事業の評価や進歩状況を具体的に意見交換会や体験やPR活動を行うと共にイベント・広報等で実践している。・・・が、島の産業がサトウキビ中心で現状の收支バランスが悪く、取り組みは息の長いも

組む宮古島のE3モデル事業は、燃料種類無水バイオエタノール、原料は宮古島産糖蜜、用途はエタノール3%混合ガソリン（E3）燃料で平成18年は1200t／日生産している。平成19年は商用化を見据えた生産プロセスの改良と総合評価を実施。蒸留残渣液（糖蜜工タノールの残液）の特殊肥料としての利活用等、総合利用の確立と評価に取

基盤整備中の農地



のである事も感じられた。表土流出は、平坦な土地は別として勾配地では必起な現象であり、各自が“自己の財産流出を防止する”位の考え方を持つて対応する必要があると感じた。

第四日 宮古島の観光と雪塩
製塩所で海水からの製塩を見学後、“環境省地球温暖化対策技術開発事業”により開発研究に取り組む株式会社りゆうせきで研修する。

現在の世界のバイオエタノール生産状況は、生産量でコーン使用の米国 1600 万 kL 、サトウキビ使用のブラジル 1600 万 kL 、中国の 130 万 kL 、EU の 270 万 kL 、を主力にタイ・フィリピン・インドネシア・インド・オーストラリア・日本等が取り組んでいる。米国とブラジルの生産量は世界生産量の 75 % (2005 年) で、今後も各種の材料による生産研究が進行している。その中で日本の取り組む宮古島の E3 モデル事業は、燃料種類無水バイオエタノール、原料は宮古島産糖蜜、用途はエタノール 3 % 混合ガソリン (E3) 燃料で平成 18 年は 1200 / 日生産している。平成 19 年は商用化を見据えた生産プロセスの改良と総合評価を実施。蒸留残渣液（糖蜜エタノールの残液）の特殊肥料としての利活用等、総合利用の確立と評価に取

り組んでいる外、バイオエタノールをボイラ・自家発電・船用ディーゼルへの直接添加試験や、メタン発酵によるエネルギー回収・糖蜜中の有価成分回収・利用等、様々な利用分野への開拓をこころみると共に、燃料製造コスト評価を検討しているといふ。すでに実証実験を行つて、問題なく実験車は送行しているというが、このE3燃料の普及にはまだ時間が必要と見るが期待も多い現状を見た。

以上、沖縄県の表土流出防止対策とバイオ燃料の視察研修のレポートとしたい。



**石垣・宮古
那覇五日間の研修旅行**

一月二十二日朝、6時30分マニナス6度の嬬恋村を出発し、気温21度石垣島へ午後5時15分到着。もう少し暖かいと思つたが少し寒く感じた。夕食は三線と八重山の民謡を聴きながら大変盛り上がり第一日目の夜を満喫した。

二日目は、八重山諸島の島めぐり。竹富島・小浜島・西表島、由布島の観光、水牛車・シユガーロード・仲間川のマンゴーロープ・西表島天然記念物のサキシマスオウノキなどを見学。

三日目は、石垣島の観光と八重山支庁農政農業改良普及センターでの視察研修を行う。農政班、班長の嵩原さんから八重山の農業と赤土等流出について説明を聞く。一月下旬の農作業は田植えとサトウキビの収穫が始まっている。サトウキビの収穫は人手がたりないため、今では機械による（サトウキビ用ハウベスターで60%）収穫作業が主流になり始めている。

轟川は沖縄県八重山郡島の中心地である石垣島の南東部に位置し、轟川が注ぐ白保海岸は世界的にも貴重な青サンゴ群落が存在し、環境保全上重要な海域



石垣・宮古 那覇五日間の研修旅行

である。しかしながら、河口域には赤土が堆積しており、海域の環境に負荷を与えてる。流域の地域はほとんどが農地であり、農地からの赤土等流出が顕著な流域となつてゐること。その対策としてサトウキビ葉殻を利用して畦の代用土嚢利用しての流出防止、ゲットウ直裁でのグリーンベルト畦立をして流出防止をしている。などの説明があつたが、どれも赤土流出を防ぐことができる効果的な対策ではないことであつた。山なりの基盤整備をした農地を勾配修正5%以下の修正で基盤整備を行い、畑のまわりは畦を作る工法も実施されている。しかしこの勾配修正整備は大変なお金がかかるとのことです。と説明されました。このあと、現地視察してサトウキビをハウベスターで収穫している様子を見た。マンモスの大きな自走クローラー式のハウベスターで200馬力で3千万円もするそうです。1トン2万円で10a当たり5トンの収量では、採算は合うのかなと思う。勾配修整の現地を見てこの勾配修整の工事は時間と大変な金がかかると思う。ただ畜産農家が増えていて（黒毛牛の子とり）サトウキビの栽培が減つてきている。それにより八重山の周年牧草生産可能な気候で、広大な草地の造成が増えて赤土

の流出が減るのではないかと思う。石垣島の視察研修を終えて空港から宮古島へ移動。

四日目は、宮古島の観光とバイオエタノール生産プランの視察研修を行う。株式会社りゆうせきで環境省の燃料用エタノール生産プラン視察。バイオエタノールプロジェクト推進室のマネージャー芳山氏より、世界のエタノール生産と国内産バイオマス原料によるバイオエタノール生産技術の確立、宮古島の砂糖かられた砂糖の副産物の糖蜜からのエタノール生産について説明を聞く。砂糖生産の副産物の糖蜜のため砂糖生産には影響がない。

穀物エタノールを生産するとの違い食糧飼料の供給に影響がないとのことだった。E3燃料製造と実車走行までの技術開発実証を行うわが国の初めての事例。

宮古島サトウキビ増産につながる支援事業として製糖の副産物の糖蜜からエタノール燃料を生産し、E3燃料を製造する世界に誇れる国内の優れた技術を集積した技術開発の成果を沖縄県の特色をいかした地産地消型の技術開発では、糖蜜に合つた高生産性発酵プロセス開発。熊本大学が開発した酵母の使用。蒸留したエタノールから水を抜く膜脱水プロセスの開発。ゼオ



ノイカから作った膜脱水は、物産ナノテク研究所が開発し膜は世界でもわが国しかできない最先端技術だそうです。このようにわが国の最先端技術の使用で、これが大変なんだとの事。差液から宮古島の畑に使える特殊肥料を作ることが課題だそう

説明後、生産プラントを視察し説明をしてもらう。わが国の最先端技術のエタノールとE3燃料生産プラントのすごさにおどろいた。視察後、宮古島空港より那覇空港へ。

五日目は、首里城、平和記念公園、ひめゆりの塔、旧海軍司令部壕などを見学し、那覇空港から嬬恋村へ。全員元気で午後10時10分に無事到着。

農用地の転用・売買・貸借等は許可を受けてから

◇「自分の農地だから、許可を届け出などしなくても、自由に売ったり、貸したり、転用してもよいのではないか」と思っておられる方はいませんか。

◇耕作者の農地の取得を促進し、その権利を保護するとともに、優良農地を守り、農地の効率的な利用を図るために、「農地法」という法律があります。

◇農地を売ったり、貸したり、転用したりするときには、「農地法」に基づく許可が必要です。

農地を売買したり、
貸し借りするときは

3条申請

自分の名義の農地を
転用するときは

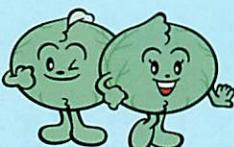
4条申請

他人名義の土地を買つ
てあるいは借りて転用
するときは

5条申請

◇農地を耕作目的で、売買したり、
貸し借りするときは、農業委員会
の許可が必要です。

◇なお、資産保有や投資目的による
売買、また、農地を取得する適格
者（耕作面積が
申請地を含めて
50a以上）でない
場合には許可さ
れません。



『嬬キャベちゃん』

◇農地の転用とは、農地を住宅、車庫、工場、倉庫、資材置場、駐車場、山林など、農地以外のものに用途を変更することで、農業委員会を経て県知事の許可が必要です。

◇転用申請では次のような内容を審査します。

- ①転用の目的は適正か
- ②転用の面積は適正か
- ③水利など、必要な同意はあるか
- ④付近の農業に与える影響はどうか
- ⑤転用の目的は確実に実現できるかどうか
- ⑥他の法令関係で手続きが必要な場合、それ
がなされているかどうか

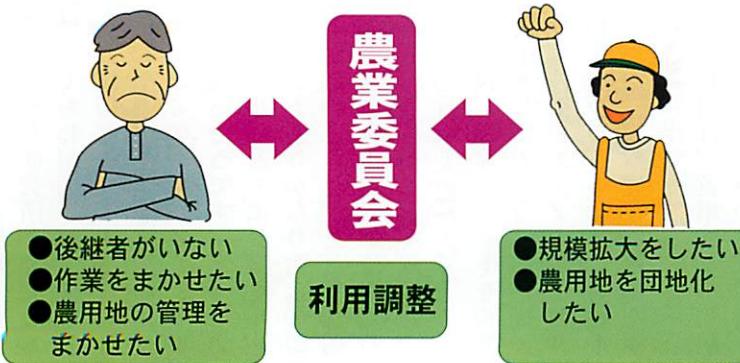


農地の貸し借りは安心な利用権設定で！

農地を貸借するには、農地法か農業経営基盤強化促進法の許可が必要となっています。

農業経営基盤強化促進法の利用権設定は、貸した農地は期限がくれば必ず所有者に返されるので安心して貸すことができます。借り手も期間を決めて契約するので安心して経営計画を立て、耕作できる制度となっています。

また、耕作証明等、経営面積を証明する書類を発行する際には、このような契約がされていないと、耕作面積にカウントできませんので、きちんと契約をして借りましょう。



平成20年1月1日現在により調整した
嬬恋村農業委員会選挙人名簿登録者数

地区名	世帯数	人 数
田代	224	723
干俣	134	399
大笹	180	499
大前	83	194
西窪	17	45
門貝	23	43
三原	36	83
鎌原	83	226
芦生田	28	76
袋倉	34	111
今井	86	223
合計	928	2,622

農業、農政の情報紙
全国農業者新聞
を購読しましょう！

農業者ための年金
農業者年金
に加入しましょう！